

平成 23 年度第 5 回 産業応用部門論文委員会主査会議 議事録 (案)

1. 日時 平成 23 年 12 月 21 日(水) 13:30-15:30
2. 場所 電気学会本部会議室
3. 出席・欠席者 (敬称略) : D1:3 名、D2:2 名、D3:3 名、D4:2 名、D5:3 名、他:2 名
(重複所属主査については各グループ人数に重複してカウント)

○出席

竹下 (編修長、名古屋工業大学)、村上 (編修長補佐、慶應義塾大学)、木村 (D1,D5 主査、大阪工業大学)、船渡 (D1 副主査、宇都宮大学、記録)、綾野 (D1 次年度副主査、東京高専)、森本 (D2,D4 主査、東海大学)、山口 (D2 副主査、リコー)、米谷 (D3 主査、三菱電機)、村井 (D3 副主査、東海旅客鉄道)、野口 (D3 次年度副主査、静岡大学)、叶田 (D4 次年度副主査、日立製作所)、亀井 (D5 副主査、三菱電機)、近藤 (D5 次年度副主査、千葉大学)

×欠席

岩崎 (D2 次年度副主査、名工大)、道木 (D4 副主査、名古屋大学)、藤田 (編修広報担当役員、東京工業大学)、佐藤 (ゲストエディタ、千葉大学)、山崎 (ゲストエディタ、千葉工大)、南方 (ゲストエディタ、千葉工業大学)、赤津 (ゲストエディタ、芝浦工大)

4. 提出資料

- 23-5-0 平成 23 年度第 5 回 D 部門主査会議事 (船渡)
- 23-5-1 平成 23 年度第 4 回産業応用部門論文委員会主査会議議事録 (案) (船渡)
- 23-5-2 電子査読システム運用状況 (村上)
- 23-5-3 産業計測制御全般特集号査読状況 (南方)
- 23-5-4-1 産業計測制御全般特集号企画書 (村上)
- 23-5-4-2 産業計測制御全般特集号論文募集原稿案 (村上)
- 23-5-4-3 回転機技術特集論文起案書 (村上)
- 23-5-6-1 異議申立書(D11-XXX) (村上)
- 23-5-6-2 異議申立書(D11-XXX) (村上)
- 23-5-6-3 異議申立メール(D11-XXX) (村上)
- 23-5-6-4 返送異議メール(D11-XXX) (村上)
- 23-5-6-5 異議申立に対する回答書案(D11-XXX) (村上)
- 23-5-6-6 異議申立に対する回答書案(D11-XXX) (村上)
- 23-5-6-7 異議申立に対する回答書案(D11-XXX) (木村)
- 23-5-6-8 異議申立に対する回答書案(D11-XXX) (村上)
- 23-5-7-1 産業応用部門論文委員会主査会運営要綱 (竹下)

23-5-7-2 産業応用部門論文誌編修に関する役員会申し合わせ（竹下）

23-5-8 産業応用部門表彰規程（竹下）

23-5-9 D1 論文幹事増員について（船渡）

23-5-10-1,2 論文委員候補者推薦用紙（村上）

23-5-10-3 論文委員退任について（村上）

23-5-11 全国大会グループ構成表（村上）

23-5-12 2011年度主査会メールリスト（村上）

補足資料 新査読フロー

5. 議事

5.1 議事録確認

第5回主査会議議事録について、議事番号を修正の上承認された。

5.2 電子査読システム運用状況

村上編修長補佐より資料 23-5-2 に基づき説明があった。

23.12.2 現在における今年の投稿状況は D1 66 件、D2 65 件、D3 64 件、D4 19 件、D5 17 件である。昨年度から 50 件程度減である。震災の影響もあると思われる。

共通英文誌は D1 9 件、D2 7 件、D3 7 件、D4 1 件、D5 3 件であり例年どおり少ない。英文論文誌については部門英文誌で投稿を促進する。

また、竹下編修長より、運用状況表の書式について「代理」は削除、部門英文誌は別枠で表示することの提案があり、承認された。

5.3 特集号状況確認

村上編修長補佐より特集号の状況について資料 23-5-2,23-5-3 に基づき報告があった。

産業計測制御全般特集号は 12 件採録、2 件回答待ち、14 件掲載予定で成立の見込み。半導体電力変換特集号は最終的に 5 件掲載となった旨の報告があった。

森本 D2 主査より、今年度から D2 は IIC 単独となったのでハンドリングが容易となった。ただし、複数技術委員会から構成されるグループはハンドリングが難しい傾向にあるので、ゲストエディタに査読候補者リストを提出してほしい旨の依頼があった。

5.4 新規特集号

村上編修長補佐より産業計測制御全般について資料 23-5-4-1,23-5-4-2 に基づき説明があり、審議の結果、特集号の企画が承認された。

森本 D2 主査より、特集号の査読者が不足することがあるとの報告があり、その場合ゲストエディタが全情報を見られるので、ゲストエディタに助言を依頼することとなった。しかし、現在はゲストエディタの役割が不明確で、ゲストエディタによって認識が異なると

の議論があり、ゲストエディタ業務のマニュアル化を検討することとなった。

モーションコントロール英文誌は、ゲストエディタが大石先生でありメール審議で承認済みとの報告があった。

回転機技術特集号について 23-5-4-3 に基づき説明があった。前回主査会で、英文誌か邦文誌か不明との指摘があり、検討の結果英文誌にするとの説明が米谷 D3 主査よりあった。ICEMS で発表された論文が中心に投稿を促す旨の報告があった。審議の結果、英文誌なので募集要項を英文で書き直す、NL の募集記事も邦文・英文両方で作ることが指摘された上で承認された。また、ICEMS 発表論文との関係について、IEEE 著作権との関係で一定割合以上書き直す必要があるか、確認することとなった。英文誌については、英文誌委員会に諮る必要があるので手続きを取るすることとなった。

SPC 特集号について、船渡 D1 副主査より、SPC 技術委員会で検討の結果これまでと同様な方法での特集号は企画しない旨の報告があった。これまでの企画では投稿者にメリットが少ないため、現在投稿者・読者両方にメリットのある企画実施方法を SPC 技術委員会で検討中との報告があった。また、IIC が産業計測制御全般特集企画において同様な仕組みで成功しているので、理由を検討することとなった。

5.5 返送異議について

村上編修長補佐から資料 23-5-6-1 および 23-5-6-2 について説明があり、それぞれ 23-5-6-5 および 23-5-6-6 の回答書案の通りに回答することが承認された。23-5-6-2 で返送異議が申し立てられた論文について、内容が特集号の趣旨からはずれており、そもそも部門違いと思われるが、その判断はどこで行うのか、との指摘があった。検討の結果、編修長、主査、幹事段階で判断すべきであるとの結論に達したが、今回は、投稿者の意思を尊重した旨の説明が竹下編修長よりあった。

資料 23-5-6-3 について回答書案を検討した。資料 23-5-6-7 (木村先生案) ,23-5-6-8 (村上先生案) の両資料をベースに、最終案は編修長、編修長補佐、木村 D1 主査に一任することとした。

資料 23-5-6-4 については、申し立て直後なので、次回までに回答書案を作成の上、審議することとなった。

5.6 誌上討論について (確認)

前回掲載決定した誌上討論について 1 月号に掲載する旨の報告が竹下編修長よりあった。また、著者から誌上討論のプロセスが不明確なので知りたいとの問い合わせがあり、論文委員会が介在して審議の上進めたとの回答を行った旨、編修長から報告があった。

5.7 論文主査会の規程について

竹下編修長から資料 23-5-7-1 および 23-5-7-2 について説明あり、前回案からの変更点と

して、第 3 条にゲストエディタをオブザーバとして追加した旨の報告があった。審議の結果原案通り承認された。

5.8 部門表彰推薦について

資料 23-5-8 に基づき竹下編修長より説明があった。変更点として、グループ再編に伴い部門論文賞を 6 件に増やしたこと。また、論文査読功労賞が新設されたことの説明があった。論文査読功労賞の想定受賞者は、30 年以上の論文委員経験者で年齢 60 歳以上の会員であり、2 名/年程度の受賞を想定しているとの説明があった。

論文査読功労賞と論文賞については各グループ毎に候補を選定して次回論文委員会までに報告することとなった。

5.9 MD 論文幹事の追加について

D3 論文幹事の内、MD 関係者については現在野口幹事一名のためもう一名追加することとなった。山本先生（鹿児島大学）が MD から推薦され承認された。

D1 論文幹事増員について、船渡 D1 副主査より資料 23-5-9 に基づき説明があり、承認された。SPC から候補者を推薦することとなった。

5.10 次期主査会メンバー候補について

竹下編修長より副主査の主査就任に伴う新規幹事推薦について、4 月 1 日付交替である旨の説明があり、2 月中旬(仮締切 2/17)までに各技術委員会から推薦者を決定の上、主査会 ML へ報告することとなった。D1 は SPC, D2 は IIC, D3 は LD, D4 は VT, D5 は PPE から選出することとなる。併せて、次期副主査候補も決定の上、知らせることとなった。

木村 D1 主査より、幹事は必ず主査になるというルールがあるのか質問があり、その必要は無いことが確認された。従って、主査に就任しなくても退任しても良いが、幹事経験年数や主査会での役割分担（大会論文委員長など）を考慮の上、適任者が主査になるように決めることが確認された。

5.11 部門英文誌について

村上編修長補佐より、パワーエレクトロニクス特集号一般論文について 7 件投稿があり、内 2 件がサーベイ論文である。モータドライブ特集号については 3 名にサーベイ論文の執筆を依頼済みである。モーションコントロール特集号については 4/16 締切であり、現在特段の動きは無い旨の報告があった。

また、J-Stage への登録が承認された旨の報告があった。

竹下編修長より、英文誌の査読特例を廃止して、著者が全員日本語でも英文で照会文を記述することになったとの説明があった。また、幹事・論文委員も外国人を起用する方向であり外国人論文委員増強キャンペーンを実施するとの報告があった。また、論文委員は

電気学会会員資格を問わないことが確認された。関連して、今後英文誌の特集号ゲストエディタは今後日本人 1 名+外国人 1 名とする方向であり、将来的には英文誌編修長を別に置く構想であるとの説明があった。議論の結果、外国人論文委員は幹事団で推薦することとなったが、その際現在の論文委員選任手続きは推薦用紙の提出が必要で煩雑な上、外国人には理解を得るのが難しいとの指摘があり、オンライン上で完了させる等手続きの簡素化を要請することとなった。また英文誌論文委員会を別置する計画があるのか、との質問があり、当面、編修長と編修長補佐は別置するが、論文委員会は今後検討するとの説明があった。

英文誌のネイティブチェックについて編修長から説明があった。Title, Keyword, Abstract, Summary は共通英文誌と同様に学会負担で実施する。本文も著者の希望により有料で紹介する。レターも同様に実施する。

5.12 電子投稿・査読システムのバージョンアップについて

村上編修長補佐より、新査読システムについて説明があった。来年 8 月から新査読システムに移行する。新システムでは、原則個人情報登録をやり直す必要がある旨の説明があり、過渡的に査読者の選定が難しくなる恐れがあるとの説明があった。これを回避するために、論文委員、論文投稿者が再登録をするように促す仕組みを検討しており、詳細は次回主査会で説明するとの報告があった。

5.13 全国大会論文グループについて

資料 23-5-11 について編修長補佐より説明があった。論文委員会 5 グループ化に伴い、全国大会グループの変更が必要かどうか審議した。審議の結果、現行の 3 グループ体制を維持することに決定し 6, 7, 8 グループの主査はそれぞれ D1,D2,D3 の主査が担当する。詳細は、別途メールで審議することとなった。

5.14 D 部門論文委員会 HP 担当について

標記担当について、これまで D2 副主査が担当していたが、企業出身者だと企業のネットワークから HP サーバのデータをアップデートすることが難しい旨の説明が村上編修長補佐からあった。審議の結果、D2 副主査が HP 担当業務を実施することが困難な場合は、D2 内部で担当者の調整を行う。それが難しい場合は、グループ間で担当者を変更することとなった。関連して、これまで HP 担当者の職務が明確でなかったため、前 HP 担当の寺田先生に職務内容を明確にいただき、職務マニュアルを作成することとなった。

5.15 その他

論文委員の推薦について資料 23-5-10-1,23-5-10-2 に基づき村上編修長補佐より説明があり、推薦の 2 名が承認された。

村上編修長補佐より、補足資料に基づき新査読システムの査読フローについて確認事項の説明があった。1回目査読でBC,CC判定となり、2回目査読でADとなった場合、判定時R判定を実施の後、第三者査読を実施する必要があるが、R判定を行わずに第三者査読に回してしまうミスが散見されるので、注意願いたい旨の依頼があった。

5.16 次回開催日

今回は、2月と4月を合体して、3月に実施することとなった。今回は、次年度副主査候補を含めて実施する。3月13日13:30~15:30を候補とする。(記録者注：その後会場確保の都合で、3月19日実施予定となった)

以上